

NEWSLETTER

四国英語教育学会

No. 44

Mar. 2020

〒760-8523 香川県高松市幸町 2-1

香川大学経済学部 水野康一研究室内

四国英語教育学会発行

昨今の英語教育事情に思う

四国英語教育学会 会長

東京学芸大学教職大学院教授 齋藤 嘉則

昨今、英語教育の「目的」は何かと考える機会が多くなりました。

個人的に私自身が英語を学ぼうと思ったきっかけは、日本放送協会の大河ドラマ『花神』の一場面を視聴したことに起因しています。その場面は、江戸時代末期、大阪にあった『適塾』での一場面でした。主人公の大村益次郎（村田蔵六）をはじめ、緒方洪庵のもとで多くの塾生が蘭語で書かれた原書を読み解く姿でした。蘭和辞典は塾に一冊しかないという設定で、辞書を全て書き写すことから蘭語の勉強が始まります。また、蘭語文法の教本一冊が与えられそれを自分で読み解き、そして月一回行われる解説会で、その場で指名された者が指定された原書の箇所を日本語に読み解くのです。その日のために塾生はねじりはちまきで原書と格闘します。その様子が、所謂、ある種の修行にみえました。

一方当時、私の在学していた高等学校では英語科の科目は、「リーダー」と「作文・文法」であったと思います。「リーダー」を担当された先生はフルブライトの奨学生だったそうで、米国留学から帰国された先生であったと思います。その先生の授業は、「リーダー」ではありましたが、1時間、ほとんど英語で授業をされていました。半世紀近く前のことです。日常的な出来事はもちろん、教科書の難解な英文も中学校を卒業したばかりの私たちにも理解できるように英語で話されていました。学年が上がるにつれて辞書は英英辞書を持たされて語彙も豊かになり、先生の話される英語の速さも徐々にナチュラルスピードに近くなりました。

『花神』の『適塾』の教室の様子とは全く趣を異にした場面を体験しました。後年、つらつら考えるにこのふたつの教室で行われた授業の違いは何か、という思いに至ったのですが、それは「目的」が違っていたのではないかと考えるようになりました。前者は欧米列強諸国の進んだ科学的な知見、技術を早急に吸収するため、それに資する文献を正確に読み解くことが求められ、現在でもそれは変わらない部分があるのですが、後者は英語そのものの運用能力を育てるために、特に、「聞くこと」「話すこと」の言語能力の育成に焦点化して、それを「読むこと」「書くこと」に敷衍しようとしていました。それが証拠に、常々、その先生は、「英文はひとりでじっくり読むものだ」とか、「辞書を引くというよりも、辞書を読んで英文を読み解け」とお話しされていたことが思い出されます。『適塾』の学びを生徒ひとりひとりの学びに求めていたのです。

先日、偶然にも半世紀も前の平泉・渡部論争の記録、文献を紐解いてみると、そこにはもうすでにその時点で私たちが今考えざるを得ない論点がまばすべて論ぜられています。この「聞くこと」「話すこと」と「読むこと」「書くこと」のバランスのとれた教育も、英語教育の古くて新しい問題で、なかなか多くの方が納得できるものには辿り着けません。しかし、この問題にどう取り組むかが私たち英語教師に問われている問いなのではないでしょうか。そんなことを思う今日この頃なのです。

2019（令和元）年度 四国英語教育学会 理事会・総会 報告

【理事会報告】

2019（令和元）年6月22日（土）、標記理事会が愛媛大学において開催され、下記の事項が審議ならびに報告された。

○議 事

1. 2019（令和元）年度 役員改選について

今年度より高知県から事務局が引き継がれ、会長に齋藤嘉則（香川大学教職大学院）、事務局長に水野康一（香川大学）が就任することが承認された。

事務局より今年度の役員名簿が示され、県支部ごとに新旧役員の説明がなされた。

香川県：【新任】ウィリアムズ厚子（香川大学）【退任】井上浩巳（高松短期大学）【所属変更】中住幸治（香川大学）

高知県：【新任】野村幸代（高知大学大学院）、寺尾順子（高知市立義務教育学校土佐山学舎）【所属変更】森田昌吾（高知県立岡豊高等学校）

徳島：【変更なし】

愛媛：【新任】山下博司（宇和高等学校）、正岡成教（伊予市立双海中学校）【退任】折本素（愛媛大学）、河野極（愛媛大学）、藤田克昌（今治南高等学校）、客野英司（東温市立川上小学校）

2. 2018（平成30）年度 会務・会計決算報告並びに会計監査報告

水野事務局長より昨年（2018）度の会務報告がなされ、了承された。つぎに、宮本祥子前事務局会計担当より会計決算書の説明がなされ、紀要電子論文公開料の未執行について池野紀要編集委員長より追加の状況説明があった。そのあと大村潔会計監査担当より適切に処理されている旨の会計監査報告があった。

<収 入>

前年度繰越金	987,512
会費振込	357,000
全英教より事務謝金等補助	43,334
全英教よりフォーラム補助	50,000
紀要掲載料	72,060
全英教会費	124,000
合計	1,633,906

<支 出>

四国英語教育学会香川研究大会補助金	50,000
印刷費	129,600
通信費	54,350
雑 費	38,784
全国学会フォーラム補助	50,864
全国学会フォーラム参加補助費	58,322
諸交通費（全英教、会計監査、事務局引継）	50,500
紀要査読料	36,000
全英教会費	114,864
四国・全国会費過払い払い戻し	13,000
予備費（次年度繰越金）	1,037,622
合計	1,633,906

3. 2019（令和元）年度 会務計画（案）・予算（案）について

はじめに、事務局長より今年（2019）度の会務計画案について説明があり、了承された。引き続き、

事務局長より宮本会計担当より予算（案）の説明があった。質疑により紀要番号の誤りと紀要掲載予定人数の修正が行われ、予算案が了承された。

<収 入>

前年度繰越金	1,037,622
会費振込	390,000
全英教より事務謝金等補助	43,064
全英教よりフォーラム補助	50,000
紀要掲載料	35,000
雑収入(紀要販売)	5,000
全英教会費	110,000
合計	1,670,686

<支 出>

四国英語教育学会地区研究大会補助金	50,000
印刷費	150,000
通信費	60,000
雑 費	50,000
全国英語教育学会フォーラム補助	50,000
紀要査読料	42,000
紀要電子論文公開料	150,000
会計監査費（交通費補助）	10,000
全英教会費	110,000
予備費（次年度繰越金）	998,686
合計	1,670,686

4. 2020（令和元）年度 第32回四国英語教育学会高知研究大会について

五百蔵高知県支部長より、来年度の理事会および研究大会を2020年6月27日（土）に高知県立大学・高知工科大学永国寺キャンパスで開催することについて提案があり、了承された。

5. Newsletter No.40 の執筆分担について

事務局案が了承された。「巻頭言」は香川、「全国英語教育学会報告」は徳島、「四国英語教育学会理事会・総会報告」は事務局、「四国英語教育学会愛媛研究大会報告」は愛媛、「四国英語教育学会次期大会案内」は高知、「全国英語教育学会大会案内」および「編集後記」は事務局。

6. 紀要編集委員会報告

池野修紀要編集委員長より、『紀要』第39号の原稿募集に対して、研究論文3本、実践論文2本、研究ノート2本の計7本の応募があったこと、すでに査読を終えており明日（6月23日）開催の紀要編集委員会で掲載について話し合う予定との報告があった。

7. ARELE編集委員・査読委員

今年度の全国学会紀要ARELE31号の紀要編集委員・査読委員について、昨年理事会で確認された選出方針に基づき、以下の委員を決定した。なお、徳島県選出のもう1名については問い合わせ中ということで、近日中に事務局に連絡するということでも了承された。

【編集委員兼査読委員】中住幸治（香川）、寺嶋健史（愛媛）、山森直人（徳島）

【編集委員】五百蔵高浩（高知）、野村幸代（高知）

8. その他

(1) 水野事務局長より、今後の全国英語教育学会における四国英語教育学会の役割分担についての提案があり、了承された。具体的には、以下の内容である。

- ・2021年度：授業研究フォーラム 香川担当
- ・2022年度：全国大会 香川大学にて2022年8月20、21日開催予定

(2) 事務局より、現在の学会メーリングリストについて、会員のメールアドレスのリストを更新し、会員全員に学会からの連絡メールが届くようにしたいとの提案があり、了承された。

- (3) 現在事務局が管理している本学会紀要の残部が多量となっており、引継ぎ作業が困難になっている。今後は、保管上必要とされる部数を残し、少しずつ廃棄処分していくことが事務局より提案され、了承された。出席者からは J-Stage で公開されない紀要についても電子化 (PDF 化して事務局保管) したほうがよいという意見も出された。

【総会報告】

2019 (令和元) 年 6 月 22 日 (土) 午後、総会が愛媛大学で開催され、下記の議題について審議がされ、すべて異議なく了承された。なお、各議題の内容については、同日午前開催の理事会報告 (前頁) を参照のこと。

○議 事

議題 1 2019 (令和元) 年度 役員改選について

議題 2 2018 (平成 30) 会務・会計決算報告並びに会計監査報告

議題 3 2019 (令和元) 年度 会務・予算 (案) について

議題 4 2020 (令和元) 第 32 回四国英語教育学会高知研究大会について

議題 5 紀要編集委員会報告

議題 6 その他

- ・ 学会メーリングリストの更新について (全会員のメールアドレスを登録)

第 31 回 四国英語教育学会 愛媛研究大会 報告

第 31 回四国英語教育学会愛媛研究大会は、2019 年 (令和元年) 6 月 22 日 (土) に、愛媛大学教育学部を会場にして開催された。

近年、研究大会は研究発表のみで構成しており、今大会では 7 件の発表が 2 部屋に分かれて行われた。以下はそのタイトルであるが、「話すこと<やり取り>」「小中連携」「技能統合」「英語で授業」「チーム・ティーチング」など多様なテーマに関する、小学校及び中学校の授業実践に関する発表が行われた。

- ・ 外国語で自分の意見を臆さずに述べることができる生徒の育成～CEFR 話すこと (やりとり) に準拠して～
- ・ 「話すこと (やり取り)」に意欲的に取り組む生徒の育成—問答ゲームやリテリングの実践を通して—
- ・ 高知県における小中連携に関する教師ビリーフの検討—CAN DO リストの活用を通して—
- ・ 児童が推測しながら読むためのインプットの方法
- ・ よりよいオールイングリッシュの授業に向けての考察—生徒のアンケート結果より—
- ・ 英文を読んで話し合うアクティブ・ラーニング型協同学習の指導モデルづくり—中学校でのリテラチャー・サークルの実践から—
- ・ Models for Team Teaching and Classroom English for Japanese Teachers

今大会の特徴の一つは、参加者が例年のおよそ倍の 98 名となったことである。これは、英語教育関係者 47 名に加え、大学生 51 名 (多くは、松山大学の市崎先生の呼びかけにより参加した松山大学学生) の参加があったためである。懇親会は、松山大学に最近できたル・ルバで行われ、こちらにも多くの参加者があり活発な交流が行われた。研究発表を行なってくださった先生方、参加して研究発

表を盛り上げてくれた方々、大会運営でサポートをしてくれた学生の皆さんに深く感謝を申し上げます。

次回の第32回研究大会は2020年6月27日（土）に高知で開催の予定である。

（愛媛県支部 池野 修）

第45回 全国英語教育学会 弘前研究大会 報告

第45回全国英語教育学会弘前研究大会が、令和元（2019）年8月17日（土）、18日（日）に、弘前大学文京町キャンパスを会場に開催されました。大会参加者が711名、研究発表も223件あり、盛大かつ熱気ある大会となりました。

大会1日目は、開会行事につづき、午前のプログラムとして、まず、前半は、自由研究発表・事例報告が18会場で行われました。いつものごとく、どの会場においても、日ごろの研究や実践の成果が発表され、熱心な議論が行われていました。また、後半はオーストラリアのCurtin大学のRod Ellis博士による特別講演会（The Task-based Lesson）が行われました。会場もほぼ満席の状態、参加者はEllis先生のご講演を熱心に聞き入っていました。午後からも自由研究発表・事例報告が行われ、その後、各担当地区学会による課題研究フォーラム（北海道：中学校におけるコミュニケーションタスクの実践、四国：後述、九州：アクティブラーニングを考える、関東甲信越：日本人高校生の名詞句把握能力はどのように伸びていくのか第2弾）および授業研究フォーラム（中部：英語教育における研究授業後の検討会のあり方について、中国：「深い学び」を実現する英語授業）が6会場に分かれて行われました。四国英語教育学会は、高知県支部の多良静也先生（高知大学）をコーディネーターに「特別支援教育的視点を取り入れた英語授業」と題する課題研究フォーラムを担当しました。英語教育界においても、近年、その関心や研究の必要性が高まっているトピックであり、その最新情報を四国から発信していることを誇らしく思いました。会場一杯の出席者があり、大盛況でした。また、第1日目の夕刻に開催された懇親会は、津軽三味線の演奏から始まり、多くの参加者で賑わいました。

大会2日目は、午前中、自由研究発表・実践報告が18会場、また、並行して3つのワークショップ（英語授業におけるICTの活用／スピーキング力の評価と指導／実践論文の書き方）が行われました。午後からは、シンポジウム「日本の英語教育の将来：英語教育における「主体的、対話的で深い学び」とは何か？」が行われました。特に上記ワークショップとシンポジウムは、四国英語教育学会高知県支部の長崎政浩先生（高知工科大学）のご尽力により実現した企画です。近年の英語教育界において関心の高い話題を掲げた企画で、参加者にとって、とても充実した時間になったと思います。

また、両日ともに昼休憩時に大学生・大学院生フォーラムが行われ、1日目は「大学生・大学院生のための交流の場」が、2日目は「大学生・大学院生のための文献調査支援セミナー」が行われました。このフォーラムも7回目となり、例年、学生参加者の、研究に関する活発な情報交換の場となっています。次年度の長野研究大会においても開催されると思いますので、四国地区の学生のみなさんも是非参加してください。

2020年度の長野研究大会は、8月8、9日に長野市の信州大学にて開催されます。そして、少し先のこととなりますが、2022年度には四国・香川にて全国大会の開催が予定されています。

最後になりますが、今大会の準備・運営にご尽力いただいた弘前研究大会実行委員会の先生方に心より感謝の意を表し、この大会報告を締めくくりたいと思います。ありがとうございました。

（徳島県支部 山森 直人）

第 32 回 四国英語教育学会 高知研究大会 案内

第 32 回四国英語教育学会高知研究大会を下記の要領で開催いたします。多くの参加をお待ちしております。また、会員の皆様には、ぜひこの機会に日頃の発表をいただきますようお願い申し上げます。

なお、大会実施時期は6月下旬ではありますが、新型コロナウイルス感染症の流行の状況が現時点からは予測ができないため、本大会については以下の方針で、進めていきたいと考えておりますので、ご承知おさください。

- (1) 研究発表申し込み締め切り日（4月24日）の時点で、今一度、実施の可否を判断します。その時点で、感染症終息の目処が立たず、会場使用の許可が得られない場合は、大会を中止とします。
- (2) 実施の場合、当日お願いする感染症予防対策にご協力ください。
- (3) 全体での懇親会は実施いたしません。

期 日：2020年6月27日（土） 10:00-12:00 理事会
13:00-17:00 研究発表会・総会
会 場：高知工科大学・高知県立大学 永国寺キャンパス 教育研究棟
〒780-8515 高知市永国寺町2番22号

参加費：会員無料・非会員1,000円 ただし、学生（学部生・大学院生）は500円

申込み：学会ホームページ <http://www.shikokueigo.org> の各フォームをダウンロードいただき、大会事務局あてメールにてお申し込みください。

研究発表申し込み 締め切り：2020年4月24日（金）

「研究発表申込フォーム」にてお申し込みください。研究発表、実践報告はいずれも発表時間20分、質疑応答10分です。

発表要旨提出 締め切り：2020年5月22日（金）

「発表要旨投稿フォーム」の様式にしたがって作成してください。

大会参加：締め切り：2020年6月5日（金）

「大会参加フォーム」にてお申し込みください。当日参加も可能ですが、資料等準備の都合上、なるべく事前の申し込みをお願いします。

研究大会の最新情報は、学会ホームページ <http://www.shikokueigo.org> でご確認ください。なお、会員の皆様には、開催1ヶ月前頃に開催案内を郵送いたします

高知研究大会事務局

〒780-8515 高知市永国寺町2番22号
高知県立大学文化学部 五百蔵高浩研究室
第32回四国英語教育学会高知研究大会事務局
E-mail: ioroi@cc.u-kochi.ac.jp

第46回 全国英語教育学会 長野研究大会 案内

開催日：2020（令和2）年8月8日（土）・9日（日）

会 場：信州大学教育学部（〒380-8544 長野県長野市西長野6-10）

日 程：大会への参加や研究発表の申し込みに関わる詳細は、2020年（令和2年）4月上旬に大会ホームページに掲載される予定です。また、大会案内は5月頃、四国英語教育学会会員の皆様へ送付する予定です。

編集後記

今年度より四国英語教育学会事務局を香川大学が引き受けることになり、新会長の斎藤嘉則先生（2019年10月に香川大学教職大学院から東京学芸大学に異動）をはじめ新体制となりました。

全事務局の多良静也先生と宮本祥子先生には、わざわざ高知から高松にお越しいただき、詳細かつ丁寧な引継ぎをしていただきました。おかげさまで事務局長としての仕事を何とかスムーズに進めることができました。この場を借りまして心より御礼申し上げます。

さて、2022（令和4）年度には、全国英語教育学会の研究大会を香川大学が引き受ける予定となっております。新会長のご指導のもと、香川の理事は力をあわせて準備を進めていきたいと考えていますが、他県の支部や会員の先生方のご協力なくしてこの大きな大会を成功に導くことはできないと思います。ぜひとも学会員の皆様のさらなるご支援を賜りますよう、今後ともどうぞよろしくお願い申し上げます。

（学会事務局長 水野 康一）

四国英語教育学会事務局
〒760-8523 香川県高松市幸町2-1
香川大学経済学部水野康一研究室内
水野康一（mizuno@ec.kagawa-u.ac.jp）
学会 HP：http://www.shikokueigo.org/

『四国英語教育学会紀要』第40号(2020年)投稿募集

『四国英語教育学会紀要』第40号への投稿(「研究論文」,「実践論文」,「研究ノート」)を募集いたします。以下の事項をご確認の上,ご投稿をお願いいたします。

仮申し込みについて

『紀要』第40号への投稿を考慮しておられる方は,まず2020年4月10日(金)までに,紀要編集委員会事務局まで「仮申込」をしていただくようお願いいたします。

- ・ 「仮申込」の内容は, (1) 執筆者名, (2) 所属, (3) メールアドレス(共著の場合は代表者), (4) 論文タイトル(仮), (5) 投稿区分(研究論文, 実践論文, 研究ノート)とします。論文タイトルは原稿提出時に微修正していただいても結構ですが, 論文が扱うテーマや内容の大幅な変更は避けさせていただきようお願いいたします。
- ・ 送付先は 四国英語教育学会紀要編集委員会事務局 (shikokukiyo@gmail.com) です。
- ・ 「仮申込」に対して, 1週間以内に受領確認のメールをお送りしますので, 1週間経っても確認メールが届かない場合は, すみやかに紀要編集委員会事務局長・池野までお問い合わせ下さい (ikeno.osamu.mg@ehime-u.ac.jp)。
- ・ 「仮申込」のない場合, 提出される原稿は受理いたしません。
- ・ 『四国英語教育学会紀要』に投稿される論文は, 四国英語教育学会研究大会で発表されることを推奨しています。(すでに過去の研究大会でご発表いただいている場合もあるかと思えます。)2020年度の研究大会は6月27日(土)に高知で行われる予定です。ぜひ研究発表を行うことをご検討下さい。

原稿執筆&提出について

- (1) 『四国英語教育学会紀要』第39号の巻末にある執筆要領に従って執筆を行なって下さい。
- (2) 執筆言語が母語でない場合は, 母語話者によるチェックを受けて下さい。
- (3) 原稿提出締め切りは 2020年5月8日(火) (必着) です。
- (4) 原稿提出に関する詳細な連絡は, 仮申込のあった方にメールでさせていただきます。

『四国英語教育学会紀要』第40号への投稿をぜひご検討いただきますようお願いいたします。

四国英語教育学会紀要編集委員会事務局
愛媛大学教育学部 池野修研究室内
shikokukiyo@gmail.com